

平成19年12月20日

「全国学力・学習状況調査の課題と今後の改善について」

横浜市立吉田中学校
校長 中村 眞一

本年4月24日（火）に第3学年の国語と数学で実施された、「全国学力・学習状況調査」の結果が10月24日に公表されるとともに、本校にも届きました。

今回の全国学力・学習状況調査は、従来行われている横浜市学習状況調査とは、調査内容や目的が異なります。今回は調査結果を分析し、本校の課題と今後の改善案についてお知らせ致します。

本校の調査結果の一部分を掲載しますので、各ご家庭での学習支援やお子様との対話の参考にしていただければ幸いです。

今回皆様にお知らせしますのは、「学校生活・家庭生活・生活体験・地域に関すること、国語や数学」に関する内容等101項目にわたる質問事項の中の一部ですが、本校生徒の特徴や生活の実態が見えてきます。すでにこれまで実施された横浜市の学習状況調査からも同様のことが明瞭になっていますが、全国の結果と比べることにより改めてその特徴がはっきりとしてきました。

今回の全国学習学力状況調査の結果を踏まえ、本校の課題を明確化し、その課題解決に向けて教職員が一丸となって鋭意努力していきますので、生活習慣の確立、家庭学習の支援につきましてご家庭でもご理解とご協力いただけますようお願いいたします。

全国学力・学習状況調査の概要 (文部科学省資料より)

1 背景

- 学校教育の現状や課題について十分に把握する必要性
- 国際学力調査の結果にみる学力や学習意欲の低下傾向
- 義務教育の質を保証する仕組みの構築の要請

2 調査の目的

- 全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童生徒の学力・学習状況を把握・分析することにより、教育の結果を検証し、改善を図る。
- 各教育委員会、学校等が全国的な状況との関係において、自らの教育の結果を把握し、改善を図る。

3 調査対象 小学校第6学年、中学校第3学年

4 調査内容

(1) 教科に関する調査 (国語A・B、数学A・B)

| A ; 主として「知識」に関する問題 | | B ; 主として「活用」に関する問題 | |
|--------------------|--|--------------------|--------------------------------------|
| 国語A | ・身に付けておかなければ後の学年の学習内容に影響を及ぼす内容 | 国語B | ・知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力 |
| 数学A | ・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など | 数学B | ・様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価・改善する力 など |

国語A・数学Aは知識に関する問題なので、比較的従来の総合的なテストと類似しています

国語B・数学Bは活用という視点からの問題で、実生活に生かすという、あまり経験の無かった設問です

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

児童・生徒に対する調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

- (例) ・国語の勉強は好きですか
・授業の内容はどの程度分かりますか
・一日にテレビを見る時間、読書時間、勉強時間の状況 など

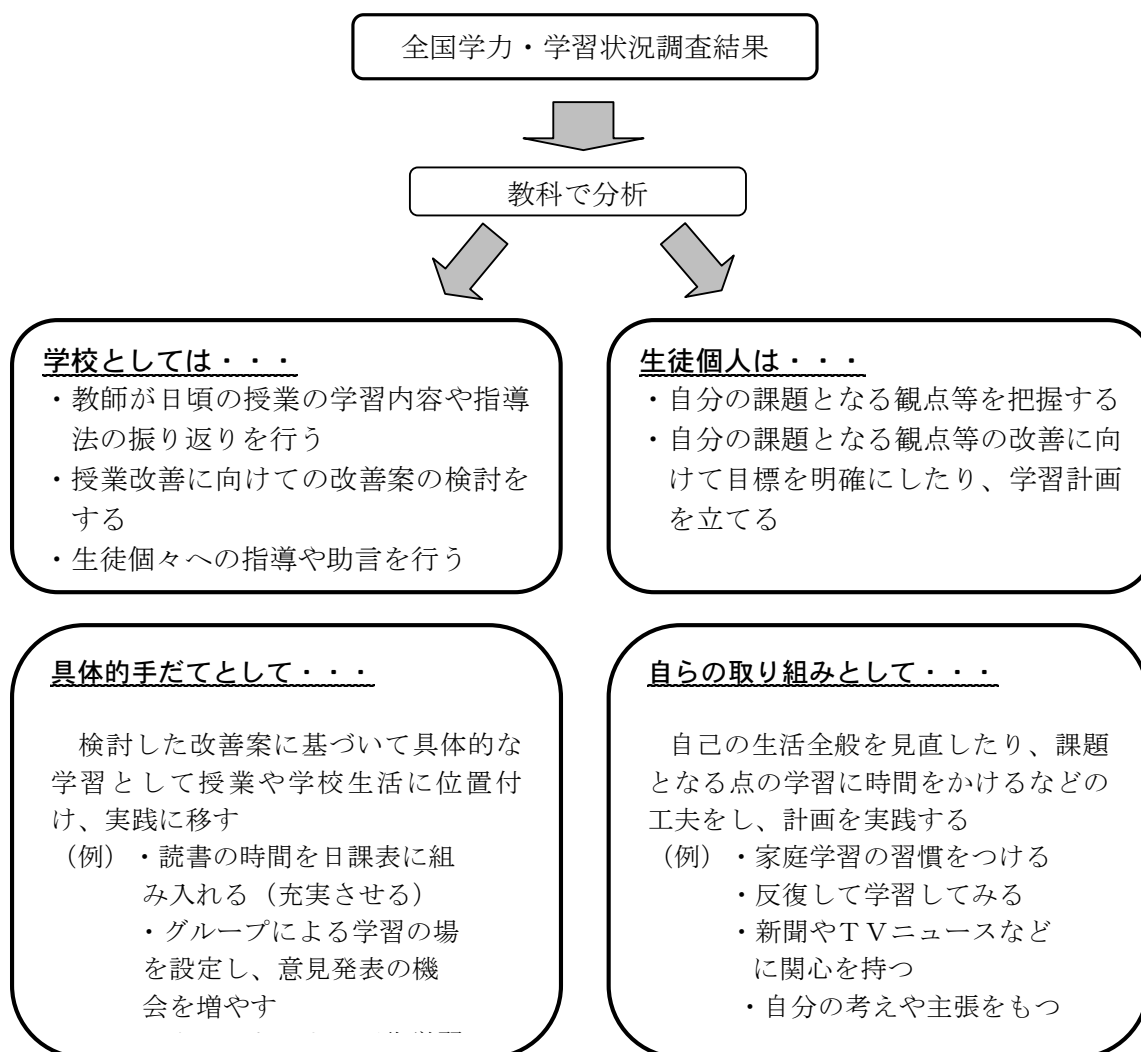
学校に対する調査

指導方法に関する取り組みや人的・物的な教育条件の整備の状況、児童生徒の体力・運動能力の全体的な状況等に関する調査

- (例) 授業の合間や放課後における補充的指導の状況、学校における教育の情報化の進行状況 など

調査結果の活用

調査の概要に示したとおり、今回の調査の目的は学校と学校を比較したり、集団の中の個人の順位を求めたり、個人と個人を比較するものではありません。したがって、本校では平均値等の数値データを示さず、学習内容(調査内容)で示すことといたします。



調査の結果から（各教科）

国語A（主として知識に関する問題）について

優れている点として

- 話すこと・聞くこと
 - ・伝える必要のある内容を簡潔なメモにまとめること。
 - ・聞き手を意識して使用する語句を工夫すること。
 - ・話し手の意図を理解すること。
- 読むこと
 - ・古典作品に親しんでおり、歴史的仮名遣いなどに注意して内容を読み取ること。
- 言語事項
 - ・文の成分に注意して書くこと。
 - ・生活の場面で敬語を適切に使うこと。
 - ・語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うこと。

改善を要する点として

- 書くこと
 - ・手紙の頭語や後付け、主文の書き出しの語について理解していること。
- 読むこと
 - ・文脈における自然描写を的確に読み取ること。
 - ・比喩等の表現技法に注意して内容をとらえること。
- 言語事項
 - ・文脈に即して漢字を正しく書いたり、読んだりすること。

具体的な改善案

- 書くこと
 - ・文章を書く機会を増やして、様々な場面に必要な書き方を学習すること。
 - ・3年生自然体験学習での衣川の農家へ手紙を書いたり、各種作文コンクールへの応募の取組を行う。
- 言語事項
 - ・文脈に即して漢字が正しく書けるよう、計画的な学習を進める。
 - ・毎回の授業時間に、漢字の反復練習や確認小テストを行う。

国語B（主として活用に関する問題）について

優れている点として

- 話すこと・聞くこと
 - ・話すことの内容に応じて、適切な資料を提示すること。
- 書くこと・読むこと
 - ・根拠を明らかにしながら、自分の考えを相手に伝えるように書くこと。
 - ・必要な情報を収集し、表現に生かすことができること。
 - ・作品の内容や表現上の特徴をとらえること。

改善を要する点として

- 話すこと・聞くこと
 - ・必要に応じて、適切な資料を活用すること。
- 書くこと・読むこと
 - ・作品の展開や心情の変化に着目して朗読すること。
 - ・資料を比較して、違いを読み取り説明すること。
 - ・資料に表れているものの見方や考え方をとらえ、伝えたい事柄や考えを明確にして書くこと。

具体的な改善案

- 必要な資料を読み取り、伝えたい事柄や考えを、明らかにしていく学習をする。
- 読書に親しむ機会を増やし、授業中に本を紹介したり、「ブックトーク」を実施したり、ワークシートに取り組んだりする。
- 名文の暗唱や音読を取り入れ、豊かな表現力を養うように努める。
- 授業中にスピーチを実施し、自分の意見や主張を正しく伝える力を養うとともに、相手の考えを正確に聞き取る態度も身に付けさせて、自分のスピーチを改善することに役立てる。
- 学年の発達段階に応じて、聞き取りの練習を実施する。日常生活に身近な話題から、文学作品の内容把握にいたる高度なものまで取り入れる。
- 国語を学ぶ意欲を大切にして、積極的に授業に参加する態度を育てる。授業中のきまりを守らせ、私語や忘れ物、携帯電話の使用や飲食、他の生徒や教師への暴言や暴力行為を許さない環境を作り上げる。
- より高度な内容の学習を望む生徒への環境や条件の整備や情報提供に努める。選択教科の活用を推進する。

数学A（主として知識に関する問題）について

優れている点として

- 数と式 指数を含めて、正の数と負の数の計算をすること。
- 図形 図形の基本的な性質や定理を活用して角度を求めること。
証明の意義について理解していること。
- 数量関係 比例の意味を理解していること。

改善を要する点として

- 数と式 具体的な事象の中で、文字式を活用すること。
等式を目的に合うように変形すること。
樹形図や表等を利用して場合の数を求めること。
- 図形 空間での直線と直線、平面と直線の位置関係を理解している。
円柱と円錐の体積の関係を理解している。
記号を用いて表された図形の意味や辺の位置関係等を理解している。
- 数量関係 比例や反比例・1次関数の関係を式やグラフと関連づけて捉えること。

具体的な改善案

- 授業の中で、各単元の基礎・基本を確実に押さえ、教科書の例題や問を繰り返し解く。
- 一斉授業の中にも個別指導をより多く取り入れる。
- より一層、教材研究に力を入れる。
- 学習内容では、小学校との連携を図る

数学B（主として活用に関する問題）について

優れている点として

- 数量関係 与えられた情報を的確に処理し比較することができる。
グラフから情報を読み取ることができる。

改善を要する点として

- 数と式 筋道を立てて考え、数学的な表現を用いて説明することができる。
- 数量関係 問題解決の方法を数学的に説明することができる。

具体的な改善案

- 各単元での知識や処理能力が活用できるような具体的な事象で、筋道を立てて考え、説明することができる問題などを、機会があるごとに授業に取り入れるようにする。

調査の結果から（質問紙調査）

好ましい点として

《学習面において》

- 学校で好きな授業があると答えている生徒が多い
- 教科の学習が大切であると答えた生徒の割合が高い

《生活面において》

- 将来の目標や夢を持って生活している生徒が多い
- 何かに対して一生懸命取り組んだ経験のある生徒が多い
- 地域の行事に参加したり、近所の人に挨拶をする習慣がある生徒の割合が多く、地域とのコミュニケーションが構築されていることがうかがわれる
- 小さい子どもと遊んであげたことがある生徒が多い
- 十分な睡眠時間をとっている
- 新聞やテレビのニュース、世の中のいろいろな出来事に関心があるという生徒が多い

改善を要する点として

《学習面において》

- 家庭学習の時間が少ない
- 「総合的な学習の時間」が好きな生徒の割合が少ない

《生活面において》

- 就寝時刻が遅い生徒が多い
- 起床時刻が遅い生徒が多い
- 朝食を摂らずに登校する生徒が多い(家の人と一緒に食べる割合も低い)
- 学校に持って行くものを前日あるいは当日の朝に確認している割合が少ない
- 家の手伝いをしている生徒の割合が少ない
- 自然や動植物に親しむ経験が少ない生徒が多い

教科学習においては、国語や数学の学習が自己の成長に必要なものであるととらえている生徒が多いことや「好きな授業がある」と答えた生徒の割合が多いなど、学習の取り組みや意識に関しては全国と比較して、それほどの違いはないと考えることができます。ただ、家庭学習の時間が少ない生徒の割合が大きいことも事実なので、今後の課題として学校・家庭両面からののはたらきかけが必要になってきます。「総合的な学習の時間」については、これまでの反省から本年度より従来の形態を変えて実施しております。今後生徒の声も反映させながら改善・改良を推進していきたいと考えています。

生活面においては各ご家庭の事情もありますが、可能な限り好ましい日常生活を構築できるようよろしくお願いいたします。